

第3回秋田県心身障害者コロニーあり方検討会の議事概要

○日時 令和5年8月7日（月） 13:25～14:55

○場所 秋田地方総合庁舎6階 601会議室

○出席者 委員10名、事務局（県、秋田県社会福祉事業団）

○議事

議事①第2回あり方検討会における今後の方向性の議論に向けた意見整理について

- ・現在地で運営を継続する場合は、道路や用水整備は前提条件であり、由利本荘市との話し合いが必要である。この点がクリアできなければ、現在地は適正とは言えない。
- ・コロニーを議論するのであれば、現状規模で維持するのか、分散していくのかという部分に論点は集約される。議論が散漫にならないように論点を絞り込む方がよい。
- ・適正規模が100人とある。この点については、全県的な調査を実施した方がよいのではないか。民間施設は人員の問題もあり定員どおり利用者を受け入れられないところもある。今後の入所希望者の見込みにも配慮をして考える必要があると思う。
- ・資料を見ても“わくわく感”を感じない。保護者にとってあるいは家族にとって“こういう施設ができてよかった”“こういう施設があれば本当に助かる”などのニーズを掘り起こして、期待感の持てる内容にしていく必要があると思う。
- ・利用者の重度化・高齢化も進んでいるので、生活面の事を考えると、可能であれば入所機能を残しつつ、住宅地に近い地域へ整備するのがよいと思う。
- ・いずれ入所者が減っていくとしても、コロニーを100人規模にするならば、新規入所施設の整備や民間社会福祉法人の活用は視野に入れる必要があると思う。現入所者300人への支援は複合的に考えていくべき。
- ・保護者や家族が喜ぶのは強度行動障害への対応の充実や介護との連携だと思う。強度行動障害で困っている親の方は対応の充実はありがたいと思うし、高齢化を考えると介護との連携は必要と思う。

議事②今後の方向性に向けた意見交換について

- ※「Ⅱ 地域生活移行の進め方等」について意見交換を行った。
- ・秋田県は重度化・高齢化が非常に進行している。そのため、重要なことは医療や介護に関する専門スタッフが配置された障害者支援施設の充実・強化を図る事だと思う。障害者支援施設の外に移行することは否定しないが、地域移行を数値目標にして進めるというのは、逆に障害のある人の権利を侵害することになるのではないかと思う。
- ・あすなろの郷の地域移行の基本的な考えが示されているが、あすなろの郷にも重度障害者に対応する施設はある。地域にある施設を活用しつつ、重度障害者に対応する施設も整備するというのであれば、コロニーを市街地に整備する意味はあると思う。
- ・知的障害者の数や支援学校の生徒数は年々増えている。そういった状況の中で施設の入所者数を減らす場合、減った部分を補填するサービスを新たにつくっていかねば、障害者のニーズを酌み取れない状況が生まれてくるのではないかと思う。

- ・ 重度障害、強度行動障害を持つ人の数を把握し、コロニーが対応する範囲を考えなくてはならない。まずは県で全体数を把握し、コロニーが対応する範囲と他の民間団体や制度、システムが対応する範囲を分けて考えてはどうか。全体像を把握したうえでコロニーを1か所とするか複数か所とするかも考えていくべきと思う。
- ・ 支援学校の生徒が増えており、知的障害や発達障害といった生徒の持つ障害の内容も多様化してきている。また、支援学校卒業時の一般就職率は上昇傾向にある。こうした状況も考慮しつつ、コロニーのメインターゲット層を明確にして進めてはどうか。

○その他

事務局より、次回検討会の開催日程について説明を行った。